

# 横浜電子情報工学会 会報

## 平成 17 年 5 月 18 号



— 学位記授与式の後で — 平成 17 年 3 月 25 日

### 横浜電子情報工学会

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5 横浜国立大学工学部内

TEL: 045-339-4112 FAX: 045-338-1157

Email: dnjkai@dnj.ynu.ac.jp

URL: <http://www.dnj.ynu.ac.jp/DNJ/index-j.html>

(電子情報工学科HPよりアクセスください)

## 目 次

	ページ
横浜電子情報工学会会長挨拶	稻田 浩一 1
電子情報工学科長	吉川 信行 1
土肥先生を送る言葉	石井 六哉 2
会費納入についてのお願い	稻田 浩一 2
会社探訪 日立製作所	宮田 博昭 3
電子情報工学科の現状	4
平成 17 年 3 月卒業生の進路	5
横浜電子情報工学会役員名簿	6
クラス幹事名簿	6
維持会費納入者名簿	7
平成 16 年度会計報告	竹村 泰司 河村 篤男 8
通信用紙	

### (別紙 1)

平成 17 年度総会、懇親会のご案内  
平成 17 年度総会、懇親会会場案内図

稻田 浩一

### (別紙 2)

横浜国立大学工学部同窓会連合名簿発行のご案内  
横浜電子情報工学会会員名簿第 17 号購入のご案内

吉川 信行

## 横浜電子情報工学会 会長 挨拶



稻田 浩一 (昭和 38 年卒)

我々電子情報業界は、デジタル家電など、多少、陰りが見えてきたとはいえ、大変活況を維持しており、いずれも繁忙で、嬉しいかぎりであります。また、小型ハードデスク、次世代DVDなど、技術的にも世界をリードする実績を上げつつあります。ただ、韓国、台湾、中国などの近隣諸国の追上が厳しく、相変わらずの価格下落に対応を余儀なくされ、利益率の低下に苦労している現状であります。

現在、日本は世界に先駆け、加入者網の光ファイバ化を促進しておりますが、NTT が 3000 万加入を目指すことを表明するなど、明るい話題が提示され、一時、IT バブルに苦しんだ通信業界も明るさが見えて来ております。

大学におきましても、よこはまディーエルオーやよこはま大学ベンチャークラブ (YUVEC) などが中心となり、いろいろなシンポジウムや交流会、懇親会を開催し、従来に増して、民間との交流が活発化されており、大学がより身近に感じられるようになりつつあります。また、15 年ぶりの工学部同窓会名簿や 3 年ぶりの電子情報工学会の名簿更新など、同窓のつながりをより密にする努力もなされております。さて、我々の総会も例年どおり、7 月第 2 土曜日の 9 日に予定しております。催しの内容は別紙ご案内の通りでありますが、近年、若い人たちの出席も多くなりつつあります。今年も奮って多数の方々のご参加を頂きますようお願い申し上げます。

## 電子情報工学科長挨拶

吉川 信行



会員の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。我が電子情報工学科では昨年度 3 月に 138 名の卒業生を社会や大学院に送り出してほっとしたのも束の間、4 月には新たに 178 名の新入生を迎えました。各研究室にも新 4 年生が配属され、彼らの若いエネルギーに満ち溢れた眼差しを見ていると、我々教職員一同、新たな教育研究をスタートさせるための力が湧き起こって参ります。

学科の近況を報告させていただきますと、まず、教員の移動につきましては、平成 17 年 3 月に土肥康孝教授が定年退職されました。平成 17 年 4 月に雨宮尚之助教授、馬場俊彦助教授がそれぞれ教授に昇任され、四方順志講師、落合秀樹講師、藤本博志講師がそれぞれ助教授に昇任されました。また、同じく平成 17 年 4 月に倉光君郎講師、安藤晋助手が着任されました。事務職員では、平成 17 年 1 月に森さんが退職され、平成 17 年 2 月には尾沼さんが着任されました。

国立大学の法人化後 1 年が経過し、大学を取り巻く状況は著しく変化致しました。大学運営の自由度が増した一方で、その責任も大きくなりました。本学においても様々なことが加速度的に変わろうとしております。例えば、定常的予算の削減にともない、研究費は競争的な資金として外部から獲得しようと努力しております。教育面では、創造性、個性を重視した教育の質的な変革を検討しております。また、学生授業評価を実施し、個々の教員の教育方法の向上にも努めております。更に大学組織は、より効率的な運営のために組織を変化させようとしております。法人化にともない、大学間の競争がますます激しくなる中、我々教職員一同、本学、本学科の発展のためになお一層努力致す所存ですので、卒業生の皆様におかれましては、我が電子情報工学科を盛り上げるべく、ご指導、ご批判、ご支援を頂きます様よろしくお願ひ申し上げます。

## 土肥先生への「送る言葉」

石井 六哉



(土肥先生)

土肥康孝先生は、昭和43年東京工業大学博士課程を修了し、同年4月横浜国立大学工学部に採用されてからは、37年間の長きに渡り本学の教育研究のために尽くされましたことを感謝いたします。

先生は、並列アルゴリズムやシストリック・アルゴリズムの研究では、先駆的な研究業績を挙げられ、また学内では特に総合情報処理センター長として、大学内LAN網の手本となるシステムを構築されましたことを我々は誇るべきことであると思います。

先生の趣味は多彩です。特にヨットを20年間も所有しておられ、各種のレースに参加したり、クルージングを長年に渡り、楽しまれておられました。1980年頃からジョギングに興味をもたれ、現在までに走った距離を合計すると、地球の1/3周を走った事になるそうです。また、毎日横浜駅から大学まで歩いてこられていたのは、有名な話です。夏休み等を利用して自転車で走られて、現在までに北海道から九州まで日本列島を縦断したそうです。また、各種の言語にも非常に興味を持たれており、最近は文字を持たない言語、ホジエン語を計算機で解析をされておられます。行動範囲の広さには驚かされると同時に、全てご自分の責任の下で、ご自身で行動を起し、結果に対して責任を持っておられる点は、我々は大いに見習うべき事ですし、退職とはいってこの様な先生とお別れすることは、大変残念に思います。

ご退官後は、ホジエン語の解析、計算機の遊びへの応用、徒步旅行、自転車旅行なども計画されているとの事ですので、健康に留意されて、ご活躍されることをお祈りいたします。

### ===== 会費納入についてのお願い =====

横浜電子情報工学会 会長 稲田 浩一

横浜電子情報工学会では、今後も会員相互の親睦を図ると共に母校の電子情報工学科の発展に寄与する積極的な活動を展開したいと考えております。しかし、これまでにもご説明致しましたが、一般会計の赤字は避けられない見通しであり、本会の財政はまさに危機的な状況が続いております。この財政危機は支出に見合った収入が得られないことが原因であり、これまでの会計報告に示されておりのように、会報発行、会員名簿データベースの維持管理、会員名簿の発行、総会の開催、および毎年の成績優秀卒業生の表彰などの主要事業を継続するだけでも赤字となり次年度経過金が減り続けております。

平成6年度より会員の皆様に年額2,000円の年会費の納入をお願い申し上げております。しかし、未だ財政危機を乗り越えるために十分なご納入に至っておりません。つきましては、本会の状況をご理解戴き、是非とも会費納入にご協力下さいますようお願い申し上げます。

なお、維持会員制度も継続しておりますので、振込用紙の金額欄に納入費目に相当する金額をご記入下さいますよう、重ねてお願い申し上げます。

### 年会費および維持会費の払込方法 一部変更になりました

従来、郵便振替及び銀行振込による納入を受け付けておりましたが、銀行のサービス変化(振込通知票の本会宛て回送や手数料の取扱い等に問題)により、今後は郵便振替のみとさせていただきます。同封の払込取扱票に該当項目(年会費2,000円、維持会費1口10,000円)をご記入の上、最寄りの郵便局にて手続きをお願い致します。これまで銀行振込を利用されていた会員の皆様へはご不便をおかけいたしますが、事情をご高察の上、ご了承いただきたく、お願い申し上げます。

尚、年会費の銀行(または郵便局)自動引落による納入は引き続きご利用いただけます。新規のお申込は、同封の用紙に必要事項を記入いただき、ご返送いただければその後は面倒な手続きなしに毎年、年会費が引き落とされるようになります。是非ご利用下さいますようお願い申し上げます。

株式会社 日立製作所

宮田博昭（平成6年卒業）

## ■ Inspire the Next

「技術を通じて社会に貢献する」。1910年の創業以来、日立が貫いてきた企業理念です。

その間、時代や社会は大きく変化しましたが、日立は「和」「誠」を基本に据えて、常に「開拓者精神」を発揮してきました。

創業時の電動機に始まり、電力・エネルギー、交通、ビルシステム、大型計算機、情報システム、通信、半導体、ユビキタス、医療システム、産業機器、ディスプレイ、家電、…と、現在ではあらゆる分野のあらゆる製品を取り扱っています。

21世紀に入って、世界はさらにダイナミックに変貌しつつあります。

そうした新しい時代の社会やお客さまの期待に応えていくために、

「HITACHI」ブランドの約束として宣言したのが、「Inspire the Next」です。

最新の製品やシステム、サービスを通して、次の時代に息吹きを送りつけ、生き生きとした社会にしたいという日立の願いが込められています。

それは同時に、「Next」に向けて自らを変革していく強い意志の表明でもあります。

## ■ 「社会が変わる、日立が変える」

日立は、知識と情報技術を中心とした先端技術によって、常に、新たな価値と可能性をもった製品、システム、サービスを提供し続け、豊かな人間生活とよりよい社会の実現をめざします。

社会とお客さまの求めるものを敏感に察知し、自らの目標を定めそれを達成することを使命として、従来の概念にとらわれず、新しい技術の開発・応用をします。未知の事業分野にも果敢に挑みます。

また、よき企業市民として、環境保全と経済的成长が両立する活動を行います。

私たちが、提供し、守り、高めていく価値は、お客さまと社会の信頼に必ず應え、

責任を全うすることです。複雑で多岐にわたるシステムにも知識と技術で対応します。

部分的に見た際に最も優れているだけでなく、社会やシステム全体を視野においたときに、

また、将来を見こしたときに、最も適した方法、本質的な解決策を用います。

「社会が変わるべき、変えるのは日立でありたい」

日立は、社会とともにこれからも変わっていきます。

日立の中にいる各個人が「社会を、日立を変えるのは自分でやりたい」と思い行動して、期待にあふれた夢のある社会を築いていきたいと考えています。

事業内容等を掲載しておりますホームページに是非アクセスしてみてください。

<http://www.hitachi.co.jp/>